

# 沖縄美ら海水族館 海のふしぎ 発見シート

## ウミガメ館編 解説

### 問1. 正解 B (120個)

個体や種によって異なりますが、1シーズンに3~4回産卵し、1回の産卵で約120個の卵を産みます。

### 問2. 正解 A (砂の中の温度)

ウミガメの性別は、卵が産み落とされた場所の砂の中の温度によって決まります。アカウミガメの場合、29℃より高いとメス、低いとオスになる可能性が高くなります。

### 問3. 正解 B (60日)

ふ化までの温度によって異なりますが、平均して60日前後でふ化します。

### 問4. 正解 C (顔)

仔ガメの顔には「卵角<sup>らんかく</sup>」というトゲのようなものがついていて、ふ化する時、卵の殻をやぶるのに使われます。この卵角は成長とともになくなっていきます。

### 問5. 正解 C (海の方が明るいから)

ふ化したばかりの仔ガメには、明るい方へ行く習性があります。

### 問6. 正解 A (アカウミガメ)

アオウミガメやタイマイは比較的近くでしか回遊をしないのですが、アカウミガメはずっとはるかかなたアメリカまで移動した記録があります。

アカウミガメは、産卵場のある日本から太平洋を横断して回遊しているのだろうという推定がありました。その推定を実証したのが沖縄美ら海水族館です。

当館が1985年に標識をつけて放流したアカウミガメが、2年4ヶ月後にアメリカのカリフォルニアのサンディエゴ沖で見つかりました。また、1988年に放流したアカウミガメが、1994年にメキシコのバハカリフォルニアで見つかりました。沖縄の海岸から200kmほど沖に行くと、強い流れの海流「黒潮」があり、ウミガメの赤ちゃんはこの流れに乗って太平洋を横断するのです。